

# 従業員にとって、いきがいと やりがいのある職場にする

## 旭東電気 株式会社



業界シェアNo.1の漏電保護プラグを中心とした小型漏電遮断器・安全ブレーカの販売と国内および中国工場におけるEMS事業を展開する旭東電気(株)。尊敬・信頼・融合をモットーとして国境を越えて全社一丸の生産販売活動を行っている。今回は代表取締役社長の北村文秀氏に創業の歴史、中国工場とベトナム新工場などの海外事業展開、現場の意見を第一に考え、何事も前向きにチャレンジし続ける会社の風土づくりについてお話を伺いました。



### — 創業のはじまり

#### ～松下電器、東の大関“前田茂”～

当社は1945年（昭和20年）に松下電器産業(株)（現パナソニック(株)）を退社した前田茂が旭東電気研究所を設立したことに始まります。その後1949年に株式会社に改組し、旭東電気(株)となりました。

前田は1931年から14年間、松下電器産業(株)で配線器具、二又ソケット、約定開閉器の研究開発に従事していました。

独立後は仕事がうまくいかず悩んでいました。そんな時、松下幸之助氏から「松下電器で商品開発した製品を旭東電気で作りなさい」と言ってくれました。この話がいただけたのは、前田の松下電器産業(株)時代の功績が大きかったからだと思います。それを表しているのが、松下電器産業(株)の発明考案番付表です。西の横綱には松下幸之助氏、そして東の大関に前田がいます。それだけ発明の件数、功績が大きかったということを表しています。

### — 旭東電気の成長

#### ～国内拠点の拡大～

約定開閉器、ヒューズ式ロータリー、冷蔵庫用リレー、こたつ用サーモなど、会社設立直後の仕事はほぼ100%が松下電器産業(株)からの受託でした。安全ブレーカ、漏電遮断器など、

当社の現在の主力製品もこの当時から製造を続けています。大阪市内の本社工場で基板の実装から組立まで全てを行い、門真の工場へ納品していました。高度経済成長の波もあり、受注は順調に増え、1967年に鳥取に100%子会社の東陽電気(株)を設立しました。国内事業の拡大は進み1988年までにさらに3つの拠点を作り、ピーク時の従業員数は1,500名でした。現在は鳥取県内に3つの工場を有し生産を行っています。



鳥取事業所 浦安工場

### — 海外への事業展開

#### ～中国進出について～

当社は1992年に初の海外拠点として中国の広州に進出しました。中国進出を決意したのは、まず第一に製造コストです。当時でも日本で作って日本で売るのは採算が合いませんでした。もう一点は当時の取引先であったスミダ電機様の委託として進出の話があったからです。全くゼロから海外で工場を運営するにはかなりのリスクを伴います。委託加工であれば、人と場

### 旭東電気 株式会社

代表取締役社長：北村 文秀 氏  
 本社：大阪市旭区新森6丁目2番1号  
 設立：1949年（昭和24年）10月7日  
 社員数：国内 310名  
 海外工場従業員 約3,550名  
 事業内容：配線用遮断器の製造販売  
 EMS事業

**松下電器社内発明・発案者番付表**  
(昭和76年4月現在)

西				東			
<b>蒙御免</b>							
小園大 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大	小園大 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大	小園大 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大	小園大 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大	小園大 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大	小園大 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大	小園大 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大	小園大 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大
千野三 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大	千野三 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大	千野三 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大	千野三 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大	千野三 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大	千野三 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大	千野三 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大	千野三 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大
藤田大 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大	藤田大 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大	藤田大 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大	藤田大 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大	藤田大 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大	藤田大 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大	藤田大 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大	藤田大 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大 藤田大
二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇	二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇	二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇	二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇	二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇	二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇	二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇	二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇

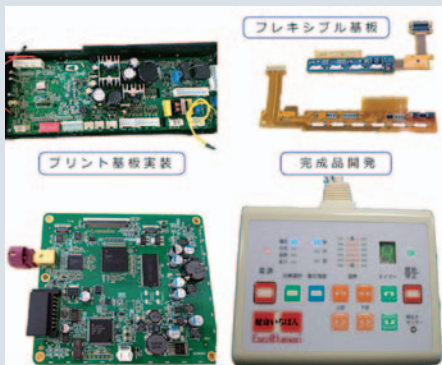
### ■松下電器産業(株)発明考案番付表

西の横綱に松下電器産業(株)創業者の松下幸之助氏。東の横綱に松下幸之助氏を支えたエンジニア、中尾哲二郎氏。東の大関に旭東電気(株)創業者の前田茂。この番付表は松下電器産業(株)の発明考案を多数した方が記載されている。



### ■業界シェアNo.1の漏電保護プラグ

基幹商品である漏電遮断器の主力となる温水洗浄便座用保護プラグは、年間300万台の売上で日本でのシェアは90%以上を誇る。その他同社が製造する小型漏電遮断器は、自動販売機やエコ給湯器に搭載されている。



### ■お客様のニーズに応えるEMS事業

部品調達から完成品までのものづくりを行い、技術力を高めつつ、同社の商品開発力を高めている。海外展開までの自動車需要や住宅着工の増加、高齢化により必要となるヘルスクケア医療機器などのニーズを据えた新事業展開を図っている。

所を借りることができます。設備は日本から持ち込み、製品を作り、日本に持ち帰るといった形でした。中国進出から2年経過し、現地で事業を展開する手応えをつかみました。そこで、広州番禺旭東阪田電子有限公司という合弁会社を設立し、旭東電気が主導の工場を作り運営を始めました。現在では広州と上海の工場で約3000人が働いています。

た。2014年の年末の話です。ドンナイ省は気候が暖かく、東南アジアのほぼ中心に位置し、主要都市に飛行機で2時間でアクセスが可能であり、人口が多く、特に若者が多いため、従業員の確保が容易であることなどがここを選んだ理由です。ベトナム工場は設立したばかりで、従業員数は550人ほどですが、ほどなく800人体制になります。

### —現場の意見が第一、旭東の風土

当社で働いている方の多くが製造現場に従事しています。一番負荷のかかる仕事です。私は現場の方の意見をいかにくみ取ってあげられるかが、会社の成長に繋がると考えています。例えば、中国工場では、各地から働きに来ています。それぞれ、食文化が異なります。そこで、食堂委員会を作り、食事の改善を進めてきました。

また、当社は役員でも2ヶ月に1回は製造現場の作業を行います。この取り組みは、社員にどれだけ負荷がかかっているかを把握するためです。現場と同じ立場になって物事を考えなければいけません。離職率が高い時は少なからず不満が出ています。こうした取り組みが従業員からの大きな不満が出ていない要因だと思います。不満があれば対話する。やりたいことがあれば話を聞く。すぐに反対するのではなく必ず議論します。「こんなことはするな」の一言では終わらせません。これが旭東の風土です。

当社は創業70年を迎えます。多くの先輩方が築き上げてきた歴史を受け止め、これからも従業員を第一に考え発展成長していきます。

### —貴重なお話をいただき 誠にありがとうございました。



広州工場(上)と上海工場(下)



ベトナム工場

今後、生産の重要な拠点として位置付け、中国で行っている事業と新たにEMS事業の仕事も拡大を図っていきます。そして、将来的にはベトナムの工場も単なる生産工場ではなく、開発もできるようにしたいと考えています。そのため、技術系の社員も採用していく予定です。これが今後当社の強みになってくれると信じています。同じものと同じように作るのではなく、お客様の要求に合わせて、修正・変更していきながら、良いものを提供できるように推進していきます。

### —海外への事業展開 ~ベトナム進出について~

中国工場は順調に稼働していましたが、人員の確保や従業員の賃金上昇など、今後の事業について検討が必要でした。そこで新たに海外拠点をベトナムのドンナイ省に作ることにしまし